

あけぼの通信 第5号

2020. 10. 1 (株)浜田あけぼの水産

ご挨拶

社長の室崎拓勝です。浜田市もようやく暑い日々から解放され秋らしく過ごしやすい日々となりました。先日子供の小学校の運動会が行われ親子対決のリレー競争に参加しました。久しぶりの全力疾走でしたが、転倒することなく無事に完走でき父親としての威厳も保つことができたことに心から安堵しております。スポーツの秋、皆様におかれましても怪我等には充分にお気を付けてください。

先日人気ドラマ「半沢直樹」が最終回を迎えました、私も毎週楽しみに観ており半沢の銀行員の正義を貫き通す姿勢はビジネスマンとして見習うべき点も多く、毎回主人公の半沢が敵や上司に対し大きな声で繰り広げる舌戦についても見所の一つでした。漁業会社の社長となると荒々しい海の男をイメージされるかもしれませんが、半沢のように大きな声で怒鳴ったり、土下座を強要したことはございません、いつも淡々としているつもりです。ですが、船上ではエンジン音や機械類の音が大きいので乗組員は大きな声で指示を出します。方言も混じるので新たに乗船した方からは怒られていると勘違いされることは多いようですが、船上は危険も伴うので大きな声でスピーディーに指示を出さないと伝わりません。物事の伝え方も色々ございますが、半沢のような伝え方は私には向いてないと思った次第です。



8月15日出漁式。久保田浜田市長の挨拶



いよいよ出漁！！

従船船長紹介

沖合底びき漁業は2隻1組で漁をしますが、今回からは漁労長の乗る主船とペアで漁をする従船の船長達を紹介していきます。今月号は第二あけぼの丸を指揮する松谷忠司船長です。

松谷船長は現在48歳。甲板員時代から底びき船で多くの経験を積み、船長になった今でも現場仕事について直接指導するなど、現場主義の叩き上げ船長です。

普段はあまり感情を顔に出さずポーカーフェイスな面があり、指導もとても厳しいですが、実は船員達のことや先のことをしっかりと考えている、いわゆる職人氣質なタイプです。その寡黙ながらも熱心な姿勢は若い船員達にもしっかりと伝わっており、皆に支持されるリーダーです。

そんな松谷船長ですが、家では子犬を飼っており、入港時には必ず家族と一緒に迎えにきます。陸に上がってワンちゃんを抱っこするのは至福の時間のようで、このときばかりは思わず笑みがこぼれています。

多くは語りませんが、これからの第一・第二あけぼの丸を束ねる次期漁労長候補として、先を見据えながら日夜奮闘しています。



今月のお魚紹介 「白いか」

山陰地方名産の白いかの標準和名はケンサキイカです。地域によって「まいか」、「けんさき」、「やりいか」、「赤いか」などとも呼ばれています。「まいか」と呼ばれるイカは、その土地で最もポピュラーなイカのことです。島根県でも浜田地域の「まいか」はケンサキイカのことをさしますが、同じ県内



でも隠岐地域の「まいか」はスルメイカです。全国的には、「まいか」と呼ばれるイカはスルメイカが多いようです。それだけ、浜田地域では、ケンサキイカが重要なイカということになります。

さて、ケンサキイカは、青森県以南の日本周辺からフィリピンまでの大陸棚上に広く分布しています。産卵期は春から夏で、海底の砂地に、長さ 20 c m程度の寒天質状の卵を産み付けます。島根県沿岸では初夏から盛夏にかけて産卵のために岸に近づき、釣りや定置網で漁獲されます。秋以降は沖合に移動し、底びき網でも漁獲されるようになります。

当社がご提供する「白いか一夜干し」は、山陰沖であけぼの丸が漁獲した白いかを、浜の匠が水揚げ後ただちに薄塩味で丁寧に一夜干しにしたものです。イカは低カロリー、低脂肪、高タンパク質の食材です。さらにイカには血液中のコレステロール値を下げ、成人病予防効果のあるタウリンや EPA、DHA など含まれています。疲労回復、視力回復にも効果があるとされています。健康にも良い美味しさを是非お楽しみ下さい。

冷凍のまま、軽く焙って下さい。細く割いて、醤油、マヨネーズ、七味唐辛子などを合わせて、つけてお召し上がりください。また天ぷらでもおいしくお召し上がりいただけます。ただし、いかは油がはねやすいのでご注意ください。



浜田近況レポート

浜田市では、早朝や夕暮れ時には肌寒くなってきており、少しずつ秋の訪れを感じるようになりました。今回は、普段気にもとめないような小さな秋を探してみましよう。





秋といえばススキです。

お団子とともにお月様にお供えしたり、お侍様がススキ道を歩くさまは、昔から秋の描写として親しまれてきました。紅葉などの鮮やかな様子と違って、どこか物寂しくモノクロなオーラがこれから静寂の冬に入ることを知らせているようです。

彼岸花が咲いています。お彼岸の時期に咲き、また独特の形状と特性から「曼珠沙華」や「死人花」とも呼ばれ、仏的な結びつきを感じさせる不思議な花です。秋という季節はその季節柄か、どこかしんみりとした様子や謂れをもつものが多いですね。



大きな栗が生っていました。秋の味覚ですね。最近ではスーパーでも主に剥き栗が売られているので、イガ（トゲトゲの殻）を見る機会も少なくなってきました。都会の子供たちの中には、そもそも栗がイガに包まれていることを知らない子もいるそうです。しかし、栗ご飯や栗菓子などは変わらぬ秋の味として子供たちに人気だそうで、ぜひ食を通じて季節を感じてほしいなあ、と思います。



仕事や家庭などで忙しい生活に追われていると、こういった自然の営みを見過ごしがちです。そういう時、たまには自然の中をゆっくり散歩して、季節と挨拶を交わすのも良いかもしれません。

今月の一句

